

特★集

リスニング力を劇的に伸ばす!

英語の「母音」 発音完全マスター

英語を学習する上でおろそかにされがちなのが、正しい発音の習得です。日本語にはカタカナ語として定着している英単語も多数ありますが、その多くは本来の英語とはかけ離れた発音に変化しています。例えば、birdとheartの母音や、batやbutの母音などを、同じように発音してしまってはいけません。こうした発音の違いに無頓着であることは、自分の話す英語が相手に伝わりにくくなるだけでなく、実は、リスニング力アップを阻害する理由でもあるのです!

今月の特集では「あ」に似た音に聞こえる7個の母音から始めて、違いがわかりにくい音を区別して発音し、聞き取れるようになるためのポイントを取り上げます。発音練習を繰り返すことで、英語を正しく聞き取る力が身に付き、自力で間違った発音を修正できることにつながります。

執筆：松澤喜好（まつざわ きよし）
電気通信大学卒。
外資系企業で多数のソフトウェア開発に従事。英国駐在も経験。
著書に「改訂3版 英語耳 発音ができるとリスニングができる」、
『「英語耳」独習法』（KADOKAWA）など多数。
日本英語学会終身会員。
日本音声学会会員。

編集：竹内佑介

なぜ正しい発音を身に付けることがリスニング力アップにつながるのか？

日本語と英語 音の仕組みの違い

日本語はカナ1個を1個の音としています。例えば「か」のローマ字は「ka」ですが、「ka」を1個の音としているので「k」と「a」の音の強さは一緒です。単語によって「k」が「a」よりも大きな音になったり、「a」が「k」よりも大きな音になったりすることはありません。これが日本語の発音の仕組みです。

しかし英語では、カナとは別の音節という仕組みを使います。例えばhelpは1音節の単語ですが、子音(h)・母音(e)・子音(l)・子音(p)の組み合わせです。putは子音(p)・母音(u)・子音(t)などと、子音と母音の組み合わせの種類が多いのです。そして子音と母音の強弱も、長短もさまざまです。さらにアクセントがある母音は長く強く、アクセントがない母音は短く弱く発音されます。これが英語の発音の仕組みです。

この日英の発音の仕組みの違いを知らなければ、日本語の仕組みで英語を聞き取るとうします。それでは自然なスピードの英語についていけないのです。

母音単体の数と組み合わせの数

【図1】 見てください。母音「あいうえお」をそれぞれ2個ずつ組み合わせた25組の音の表です。そのほとん

どの組み合わせが日本語の単語や会話の中で使われています。例えば、「あ」の行は、「嗚呼^{ああ}、愛、会う、会え、青」、「い」の行は「居合、井伊、言う、家、庵^{いおり}」などです。

一方で英語は、意外と思われるかもしれませんが、日本語のように2個の母音を自由に組み合わせることはしません。「二重母音があるよ」と思われますが、**【図2】**のように二重母音が5個、[ai] [ei] [oi] [au] [ou]があるだけです。このほかに、「あ」の縦列の5個の音[aə] [iə] [uə] [eə] [ɔə]があります(後ほど▶5 [ə]で説明します)。表の残りは空欄なので、音の組み合わせの数は、日本語と比べて少ないのです。

英語の母音には、「あ」に聞こえる音が7個あります。この7個の英語の音を一律に日本語の「あ」で発音するのは正しい発音ではありません。7個の音を正しく発音してこそ、7個の音を聞き分ける耳ができるのです。

この特集では、「あ」に対応する音に続いて、その他の母音を11個取り上げます。合計18個の英語の母音の発音をマスターすることで、あなたには18個の英語の母音を聞き分ける脳が育つのです。

自分の発音を聞いて、英語の音との違いを見つけ、自分の発音を修正するという地道なプロセスが、リスニング力アップの秘訣です。

なお今回の特集では、アメリカ英語を中心に取り上げています。

【図1】 母音「あいうえお」2個の組み合わせ

	あ	い	う	え	お
あ	ああ	あい	あう	あえ	あお
い	いあ	いい	いう	いえ	いお
う	うあ	うい	うう	うえ	うお
え	えあ	えい	えう	ええ	えお
お	おあ	おい	おう	おえ	おお

【図2】 英語の母音2個を並べた音

	あ	い	う	え	お
あ	aə	ai	au		
い	iə				
う	uə				
え	eə	ei			
お	ɔə	oi	ou		